

来る！ 稲嶺 前名護市長

沖縄「日本復帰」46年を問う

今夏、辺野古への土砂投入を許さない！

5.13
集会



名護市長選後も辺野古ゲート前座り込みにつけける稲嶺前市長

名護市長選挙の後、稲嶺進氏は、「今後も普天間基地の辺野古への移設に反対する取り組みを続けていく」考えを示しました。

稲嶺進さんは、沖縄が日本に「復帰」した年に名護市の職員となり、2010年から2期8年にわたり市長をつとめました。任期満了を迎えた2月7日も、10年近く行っている子どもたちへの見守り活動を自宅近くの交差点で行いました。

♪唐ぬ世からヤマトぬ世、ヤマトぬ世からアメリカ世、アメリカ世からヤマトぬ世、ひるまさ変わたる くぬウチナー♪ と歌われるように、1972年から46年経つも沖縄は化外の民であり、軍事植民地のままである。あらためて、46年目の5月15日「日本復帰」を問う。沖縄にとって日本とは。

今年も沖縄が「日本復帰」（46年前の1972年）した5.15がやって来る。「平和な沖縄」の“幻想”を抱いたまま歴史は流れていくのだろうか。日本国の安寧のために、沖縄は捨て石にされ、太平洋の要石にもされた。オスプレイの墜落事故、空からは窓が落ちてくるなど事件・事故のたびに原因究明を追及し、飛行停止を要求し、抗議をしても何のその。事故原因すら解明されないまま飛行を再開する。すべてが軍事優先だ。軍機が飛び交う地上に人々の日常の暮らしがあることすら無視をする米軍。行政上は日本国の都道府県の一つに数えられ、形の上では日本国憲法が適用されている沖縄県。日常的に危険に晒されている住民の生活よりも、軍事訓練・運用を重視する米軍の主張を鵜呑みにしている日本政府・防衛省。辺野古新基地建設に加え、与那国島から奄美大島まで自衛隊基地を配備・強化をし、琉球の島々を軍の鉄鎖で封じ込めようとしている。このような日本政府による沖縄列島要塞化に風穴をあける辺野古の座り込み行動、そして、今夏に計画されている土砂投入を許さない闘いを！

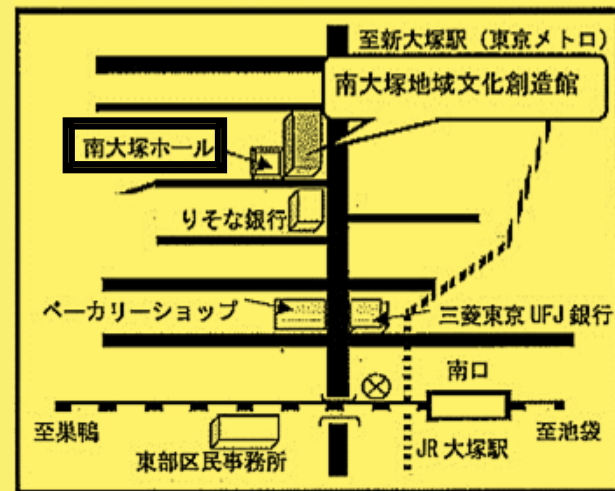
5月13日（日）午後6時開始
南大塚ホール（東京都豊島区南大塚2-36-1）

JR山手線「大塚」駅南口5分、
都電荒川線「大塚駅前」5分
地下鉄丸の内線「新大塚」駅8分

参加費 500円

メインスピーカー 稲嶺 進

（前名護市長、オール沖縄会議共同代表）



★辺野古の状況伝える、新たなA5版カラーリーフレットを4月中旬から配布★

主催：沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック 電話090-3910-4140